

プナホの幼稚園

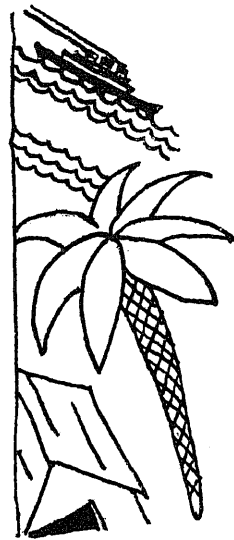
書く事にも馴れませず何等の専門的知識の無い私が、此の紙上に發表致しますこの烏滸がましさを大變御恥かしく思ふのですが、異つた國での幼稚園生活の経験が、又何等かの御參考にもなるかも知れないと思ひまして、自分の無能をも顧りみず筆を採る事に致しました。

昨年の夏私共夫妻は小學校四年の長女とお茶の水幼稚園の長男を伴つてホノル、へ参り半歳にも満たぬ短い滞在をしたのでございました。以下はその時道雄がしばらく籍を置きました幼稚園の有様を憶ひ出しながら綴つたもので

ございます。

皆様も既に御承知存じますが、ホノル、市は、太平洋上に浮ぶオアフ島と呼ばれる小さい島にありまして、ハワイ政廳の所在地として布哇八島の中最も繁華な土地でございます。

布哇群島は、主なるものを八島として其總面積を以つてさへ僅に我國の四國にも較べられる程度のものですが、其の地位の關係から相當重要な役割をもつて居ります。桑港へ二九一哩横濱へ三三九四哩、我郵船會社の優秀船の便を借りて約十日間を要します。島の分布は北緯十八度五



蠟山銀子

十四分より二二度五分に至り、西經百五十四度五十分より百六十度三十分に亙る赤道以北の熱帶地でございます。

氣候は熱帶地に在りながら貿易風やベーリング海峽より流れて此の島々を廻る寒潮に益されて年中溫暖と言はれて居ります。私共の着きました八月末は何十年來の暑さだ島の人々に騒がれて居りました、さすが舗道に出ては其強烈な日光が眼に沁むばかりで、歩けば汗がたらしく流れると言つた風でしたが、一度樹蔭に這入りますと、涼しい風が一度にそれを忘れさせて呉れましたし、陽が落ちて夜に入れば晝間の暑さはまるで無關係の様に思はれるのでした。

冬は此の地では最も良い季候とされて居ります。日本ならば戸外には雪や風を伴ふクリスマスの時でさへ、子供達はその晴木にオーガンディーを用ひ、ワイキ、の濱邊では夏の盛んさはなくとも海水浴に興ずる事が出来ます。此の様な風ですから一年を通じてみての最高最低温度の差でさへ二十度内外でして平均差は十度位と言へませう。一日の中でも、午前、午後の八時の温度は殆んば年中七十二三度を保ち、最低温度よりやゝ高いと言ふ程度ですから、大抵

季候の御想像はつく事と思ひます。

それですから夜は、夏も薄い毛布を必要としましたが、さて又、お正月でさへそれを一枚折りにした程度で充分でした。

兎に角雨季になれば、朝夕は軽い外套、スエター等も必要でしたが、年中うす物で通るので便利と言へば便利ですが又單調と言へば單調とも言はれませう。

人種は、西曆一七七八年一月英人キャプテン・ゼームス・クックのオアフ島發見に其の端を發して、現在ではポリネシヤ族、俗稱カナカミ呼ばれる布哇土人は極少數でアメリカその他の所謂白人種の外に日本、朝鮮、支那、比島人及びその雜種等世界の人種の展覽會場の觀があります。

日本人は、五十年前に九百名の官約移民を送つて以來、現今では、日系市民をも交ぜるに、全島人口約三十八萬の中、略々十五萬人を占めて、あらゆる意味から一勢力を以つて目される様になつて居ります。

二

道雄の通ひました幼稚園はブナホミ呼ばれる學校に屬し

て居りまして、極々最近に開設されたものでしたが、本校自身は一八四二年に、米國宣教師の子弟の爲めに開校の運びに到つた、古い歴史ミ誇りミを持つ中等部までの聯絡を同一構内に持つたものでして、アメリカの本土が東西兩部の交通の不都合であつた時代には西部の良き家庭の子女の多くが此處に學んださかきました。現在でも學生の大部分はアメリカ人です。

Punahou School のプナホミは土語で泉ミ云ふ意味ださうで、廣大な構内の一隅にその語源をなす如何にも御伽話にでもありさうな睡蓮のお池があります。小學校に向ひ合つて芝生の庭ミそのお池を距て、幼稚園があります。

Rice Hall ^{ライム} ^{ホール} ミ呼ばれるその建物の名は、多分他の建物が皆さうである様に、學校ミ因縁の深い人の名前を附して呼ばれたものミ考へました。

小學校の入學が滿六歳から許されるアメリカの定めに従へば、道雄は幼稚園でなく小學校に入れる苦なのでございしましたが、言葉も解りませんし、日本でも未だ幼稚園でしたので、僅かの滞在を愉快にさせてやり度いミの親心から

やつぱり幼稚園に入れる事にしました。

學期は二期制で新學期が九月である事は八月末に着いた私共ミしては誠に好都合でした。

九月四日の始まりの日に、道雄を伴つて校長のシェパー博士の紹介狀をもつて幼稚園に向きまして入園の希望を述べました。主事の差出された一枚の小さい紙に、兩親の姓名、職業、住居、園兒の年齢、名前等を書き入れたゞけで入園の手續は終りました。その時主事は朝は八時に始まる事、十一時半から十二時迄にお迎へに來ればよい事。ミルクミトメト汁ミはごちらを與へたらよいか言ふ事等を尋ねられました。そして仕事着ミ休息の時間の爲めの小さい枕ミ毛布ミマットを自參する様に注意して下さいました。此の子供達のマットが全部メード・イン・ジャバンの花蔭であつた事は面白い事ミ感じました。

主事のミス・アレキザンダーは、恰度私達の歸る一週間程前にミセス・スミスミ改姓されましたが、一見理智に勝つた方の様で又極物靜かなまだお若い先生でした。——ベビークラスの先生達ミは餘りおなじみになりませんでしたの

で此處に省きますが、——此の他に思ひ切つて背の高いまだ學生氣の抜けない様なミス・ボーチミ、カルフォルニアの大學を今年出て新學期から來られたばかりの、優しさのシムボルの様なミス・カミングが道雄達の組の先生でした。道雄の言に従へば此の他に大抵三四人の敎生の先生(?)が御仲間に加つて下さるさうです。

大きい組ミ小さい組ミたつた二つきりしかない此の幼稚園は廣い五、六段の段々を登つて玄關に面した廣間に接して四つばかりの部屋に分かれて居ります。突當りがベビークラスで、左手がお遊戯室、右手は大きい組の部屋ですが、小さい組ミ大きい組ミの中間に、枕や毛布等の爲めに銘々の戸棚が造りつけられて居り、窓に面して先生の事務用の机が据えられて、その左手の壁には子供達のミルク等の爲めに用意された大きな電氣冷蔵庫が置かれて居りました。

大きい組は鉤手形の明るい清潔な部屋を持つて居りました。お茶ノ水のお遊戯室に較べて小さくなかつた様に記憶して居ます。人數は親の轉勤等の爲めに時々出入りがあり

ますが約二十四五人の様でした。日本人は二組を通じて道雄が一人で、他は殆んぞアメリカ人でした。故國の幼稚園では、先づ大きい部類に屬する道雄の身體は一つ年下のアメリカ人のそれ等の子供に交つて恰度同じ位でした。部屋のはじめの部分の入口の壁の所には入口を二つ持つた外套やオヴァーオール掛けの場所があつて子供らしい趣嗜で各自の名前が貼りつけられて居ります。

ホノル、では、多分年中暑い事から來た衛生的考慮も加つたものだと思ふのですが、決して帽子をかぶりません。帽子は只婦人にのみ残された習慣になつて居ります。小さい子供は又靴も殆んぞ用ひません。道が完備し、到る所芝をもつて蔽れた土地でもあり、自動車の發達してゐる事等が原因の様に考へられます。此の學校の幼稚園、小學校の子供は殆んぞ云つてよい程、母親の動かす自動車で送られて迎へられます。學校のお庭は全部芝生なのですし、お部屋の出入りに堅い石段で轉がらない様に、特別の理由のない限り子供は皆ハダシになります。そんなわけでたまたま靴を穿いて來た子供はぬいだ靴を自分の置き場に揃へま

す。

八人位で取り圍める四角い小さい机が四つこ、お椅子が適當に配置されて、其の上には毎朝校庭から蒐められた先生のお心盡しのお花が花瓶に生けられて居りました。土地の自慢のハイビスカスの花は、二百餘種にも及ぶさかきゝますが如何にも子供のお部屋を飾るに相應しいものでした。たつた一日咲いて、もろくも終る此の花の外にコスモスや、日本の桔梗を見る事もありました。

先生から御本を讀んで頂く時には十人位で書棚の前の丸テーブルを取り圍みます。女の子達の大事なおまゝご遊びのお人形や、其の家具類、お臺所用品、食器等、家庭で母の用ひてゐるあらゆる種類のものが、小さいながら實用にたつ品々である事は眼を惹きました。ベットは多分子供達の製作品でせう。シングルベットが二つ、衝立を壁に見たて、ちやんみ位置よく配置されてゐるのも面白いと思ひました。

お家や、飛行機や、お船に組立てられる間餘の大きな積木は、生地のみゝの木の色でしたが、随分豊富に備へられ

て居り、それは皆大きさに従つて分類して納められる棚をしつらへてありました。

鉤手に従つて左に折れるミ右手はお庭に通じる出入口ミなつて居り、その續きの壁には幾段にもなつた棚には、子供の製作品や、材料の木材等があり、一番奥の窓に近く、のこぎり、ハンマーその他の大工道具が種類も澤山に備へられて居りました。その部屋の中央には、繪を描く時、粘土をいじる時、大工をする時の爲めにそれゝの臺がありました。大工用の臺は、子供が鋸を使ふにも危くない様に、材木の厚さ大きさに従つて振で自由に加減の出来る支へ等が取りつけられて、穴を穿けるにも釘をうつにも便利になつて居りました。クレヨンを使はない繪の爲めには、それ相應の畫架が二つ三つこ、牛乳瓶利用——瓶が比較的丸く低く口が大きい——の容器に水溶きのされた美しい色の繪具や、ブラッシュが、防水紙の貼られた低い臺にお行儀よく揃へられて居りました。この他に流し、手洗、瓦斯の設備もあり、窓ミ窓ミの中間の壁には子供の背丈の薄緑色の塗板が造りつけになつて居りました。

部屋に懸けられた額はよく取り換へられました。又道雄の描いた、ダイヤモンド丘に椰子樹の背景をもつたヨットの繪——道雄のホノル、の第一印象でもあると見えてよく此の題材を選びました——等もこの壁を飾りました。

先生の注意深い指導で、ヘルプミを得て自由にやれる大工のお仕事は、道雄にまつてはホノル、の四ヶ月の幼稚園生活に於いての、最も興味で満足ミを味はせて呉れたもの様に見受けられました。クリスマスには私共両親は生れて始めて、子供が心を籠めての製作品を贈られました。赤い紙に美しい紐やシーリングを持つたその包みは、From Michio「ミチヲヨリ」に書いたカードを附けて、クリスマスツリーの下に置かれました。當日でなければ開けられないその包を前にして、家族達は興味ある「あてつくら」を致しました。しかし「パバのは御本を置くブック・スタンド、ママのはお帽子を掛けるハット・スタンド」で道雄は待ちきれないでそつミ私の耳に口を寄せたのでした。

建物の後方のお庭は丘を採り入れた芝生で、續きには村長先生のお家が樹の葉がくれに見られます。小さい組の爲

めには特別にその一部を金網の垣をもつて結びめぐらしてありました。コンクリート造りの小さいその中のお池は、やつミ子供の膝にも満たない水を湛えてゐましたが、よく子供がサン・スーツだけになつて跳ねまはつて居りました。お砂場、ブランコ、ジャングル——ワク登り——等の他に三輪車や手押の運搬車、大きな積木はありましたが、二臺らしいものゝ見當らないのはさうした事なのでせう。尤も子供達は丘の傾斜を利用して元氣に這る事を知つて居りました。大きな丈夫な樹の枝にブラさげられた、自動車の古タイヤのブランコは、普通のものより子供達には人氣がある様でした。

大人でも這入る事の出来る大きな木の空箱は、積木で共同で子供達のよきお家にも船にもなりました。子供達が最後の外のお遊びを止めてお部屋に這入る時は廂の下の積木の小屋に二三人の男の子はその屋根にあたる蓋を開けて這入り、三人も四人もかゝつて一つづゝ運んで来る積木を受けまつて納めました。

二十人餘りの組は、大體二つに分かれて部屋の中にお外

を交代になつて居るのですが九時半になります。其の日のお當番の二三人の子供は、先生の出して下さるミルクや、トメト汁をテーブルに運び、——その時はテーブルは

一つに寄せられて大きくまはりを取り圍める様になつて居ります——それから、ナプキンペーパーの上に特別に選ばれたクラッカーとスッローを配置します。その用意が済むとお部屋の内外へその旨を知らせに行きます。遊んで居た子供達は中に這入るを待つて御不淨へ行きま。これには例外は許されません。お手を洗つて前もつて定つてゐるミルクやトメト汁のめい／＼のお席に着きます。勿論先生も御仲間に這入つて下さるのです。空になつた瓶は各自お水で簡単に洗つて定めの場合へ持つて行きます。蠟燭をたてたお誕生日のお菓子が贈られた日には、此の時間にクラッカーの代りに、當の子供から皆にわけられてテーブルを賑はします。此の後でマツトミ、枕を持つてお遊戯室に休みにいきます。三十分餘りの此の時間には、先生の弾いて下さるピアノの靜かな曲やレコードがきかされてひっそり静まるのですが、中には腕白さんが居て自

分のマットからお隣のマットへ轉び込んで騒ぐ事も珍らしくないので、餘り度が過ぎるまほんこの休養室へ一人で寝かされて了ふのさうです。

お遊戯は二三度見たゞけでしたが、日本の幼稚園で、皆でお行儀よく輪になつてやるのを幼稚園のお遊戯と思つてゐた私は觀念を換へねばなりません。先生がポリース・マン(交通巡查)を被仰る。一人の子供が部屋の中央に進み出て、残りの者達はそれ／＼四方に分かれて中央に向つてゴチャ／＼をかたまりました。勢のよいピアノのマーチに連れて、中のお巡さんは両手を動かして、適當にゴーストップの合圖をします。通行人である他の子供は、それに従つて行つたり來たりするま云ふやり方です。又時として、動物園遊びも致します。或る子供は、両手を前方へ低く捻じ合せて突き出しながら、身體を丸めて屈み込んだ姿態でゆる／＼その手を左右に振つて歩きながら象になります。此の調子で獅子も、兎も、カンガルーも出来るのです。兎に角子供達が大真面目でそのものになり切つた様は可愛らしくも、たのもしいものを感じました。所謂秩序には缺

けたものがあるかもしれませんが、個性を伸ばし創造的精神を育てられる上に影響がある様に思ひました。繪を描く時にもそうしたものを屢々感じました。

或る日お庭のお散歩の時に道雄が木ノ葉の蔭に Caterpillar (蝶類の幼蟲)を見つけます。早速皆でそれをもつて探し出して來ました。先生はセロファンのお家を作つて、蟲を大事に育ふ事を指導されました。黄と黒の強烈な横縞のその芋蟲は、私にはどうしても氣味の良いものではありませんでしたが、先生は私に盛んにチャーミング云々と言葉で見せて下さるのでした。その紙のお家の置かれた机の上の壁には、その幼蟲が蛹となり、蝶となる迄の圖が切り抜かれて貼られました。やがて蛹になつたその蟲が面白い形で、葉つばの裏に細い絲をひいてぶらさがつた時、子供達はその繪の示す眞實性と聯絡ミを始めて體得する事が出來たでせう。

時々子供達は先生やお母様方の自動車を三四臺連れねて、校外に出掛ける事がありました。港にお船を見學に、飛行場で動かない飛行機に乗せて頂いたりしてよろこんで

居りました。

此の幼稚園の生活に毎朝先生の子供の検査のある事を書き忘れてはならないと思ひます。ミス・カミングが、這入つて來る一人々々の子供に喉と手首の運動の様子ミを調べられるのです。それは病氣を未然に防がんだめのものであつたでせう。

體重その他の報告は一ヶ月に一度づゝありまして、餘り體重が一所に停頓してゐる事に注意を呼び醒まされ等します。齒の検査は特別やかましい様でした。さう云へばアメリカの子供達は何ミ云ふ美しい齒竝を持つてゐるのでせう。

言葉も知らない道雄が、多くの良き師とお友達に圍まれて、心から愉快な毎日を送る事が出來ました事はやがて成長するに従つて楽しい憶出さしてのみでない別の記憶をも持つであらう事を信じて居ります。(二月二十五日)

本文著者は昨年アメリカの大學に招聘され講演に行つて居られた東大教授蠟山政道氏夫人であります。